



防災だより『2月号』

第31号
 令和3年2月28日発行 関ヶ谷自治会 防災部防災ボランティアグループ
 防災リーダー情報・連絡・電送チームの資料・防災リーダー連絡会
 介護チーム 高齢者支援チーム 自治会電話784-2447

宮城・福島 震度6強！2月13日23時08分ごろ

・震源地：福島県沖 M7.3 深さ55km

今年はあの東日本大震災(3.11)から10年を迎えようとしています。まさに**災害は忘れたころにやってくる!**

横浜市金沢区は震度3を観測しています。また、市内で一時的停電が発生した地域もありました。

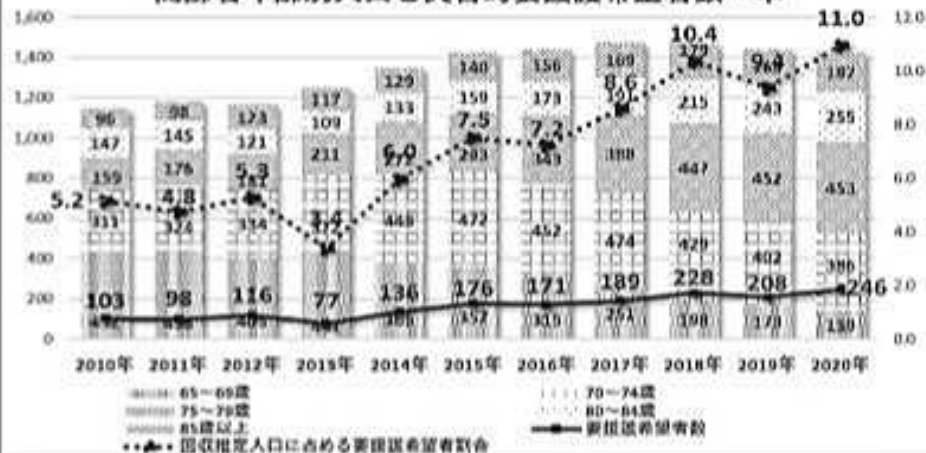
専門家は今回の地震はこしばらく、あの東日本大震災の余震は、10数年経くとも言っています。また、都市直下型地震・東南海地震を誘発することも否定できないともコメントしています。(残念ながらいま科学的に地震予知はできないと言われています)

被災地でライフラインの弱点が露呈しました。大災害に備えて、減災のため、特に「停電」「水」の対策を今一度しっかりとしてください。 東京新聞より転載⇒

(東京電力発表) 地震後の最大停電戸数

茨城県	7万2140戸
栃木県	23万780戸
群馬県	3万2840戸
埼玉県	3万4770戸
千葉県	4万1390戸
東京都	0戸
神奈川県	19万6730戸
山梨県	7万7000戸
静岡県	17万4670戸

高齢者年齢別人口と災害時要援護希望者数・率



要援護希望アンケート結果

毎年行っている「要援護希望アンケート」結果は、左記のグラフ及び表の通りです。
 前年と比べると希望者は38名増えて246名となり、回収推定人口10人に1人の割合になりました。この結果、援護する防災ボランティアグループ(以下「防災VG」)メンバー一人に対して3.2人となり、初めて3人を超えました。
 10年前の防災VG発足時と比べると、要援護希望者数は約2.4倍(2010年103人)、アンケート回収戸数の高齢者数は1.2倍(同1,145人)、高齢化率は1.1倍(同57.3%)となり、「都市型限界集落(関東学院社会学部細川先生)」の典型と言えます。

防災VGの一丁目一番地である「要援護者支援」の仕組みは、メンバーの高齢化と援護希望者が増えて限界ギリギリのところにいるのではないのでしょうか。
 このことは、防災VGだけの課題ではなく、関ヶ谷自治会が抱える「高齢者対策」の一環として、新しい仕組みを住民皆で考えていくべき喫緊の課題と言えます。



要援護者訪問訓練を行った

緊急事態が発出中の1月30日(土)9時から、自治会安否確認訓練と並行して防災VGメンバーによる「要援護者訪問訓練」を行いました。結果は、表の通り会えた方143人、会えなかった方39人でした。

当日は、コロナに配慮し、基本的に対面の接触を避け、インターフォンを使った訪問としました。この訓練は、2019年のアンケートにより要援護を希望された方を対象としたので、会えなかった方の多くが施設入所等によるもので、留守はほぼありませんでした。

訪問に回ったメンバーから、以下の意見等がありました。

- ・避難所が遠く且つ校舎の4階なのでイザの時は大変(第一)
- ・インターフォンの性能が良いため通行人に話が聞かなくなる(第二)
- ・インターフォンがない家は、寒い日陰での面談は申し訳なく思う(同上)
- ・インターフォンでは聞き取りがとて難しい(同上)
- ・何かの時だけ援護してほしいとの希望で、今後そのようにする(同上)

	会えた人数	会えなかった人数	確認人数
第一地区	54	12	66
第二地区	30	12	42
第三地区	59	15	74
合計	143	39	182



防災VG定期総会のお知らせ

■2020年度総会はコロナ禍のため「書面総会」とします。■2021年3月27日(土)

■3月5日以降に配布の総会資料の「評決票」を3月20日までに地区リーダーのポストに投函してください。



2021年1月30日実施の安否確認訓練のまとめ

【反省会】

- 1) 一時避難場所の問合せが数件あった。問答案内に明記した方がよい。
- 2) 「安否確認訓練」といいながらタオル表示有無にばらつきあり。タオル表示はあった方が良かったのではないが。
- 3) 居住者数の確認について
当日朝にブロックを回って記載した班は集合に遅れがち。(案内が9時に回るようになっていない)
事前確認も可、確認方法の具体例(電話、回覧、事前アンケート)なども示した方がよかった。
- 4) インターホンが故障したままの家あり、声かけ、安否確認しづらい。関ヶ谷だより等で修理のお願いを。
- 5) 緊急連絡網があるが、実際に機能するか試してみた方がよい。
- 6) 地区長、班長の情報の引き継ぎ
引き継ぎ袋の引き継ぎ状況、中身の確認が必要。
合同会議、オリエンテーション時等に持参してもらい内容確認するなど。
(A、B用紙の確認、一時避難場所情報の追加他)
- 7) 地区長、班長用のベストの配布の提案あり。
- 8) 居住者数の集計結果(下表参照)
居住者数の調査で、ブランク欄のあったブロックは8ブロック。
※開催案内に居住者調査の意義を記載した効果が、前回より報告数増加。
- 9) 非会員の記載についての事前問合せも数件あった。
- 他) 空家等、隣家の庭木の張り出しで困っているとの苦情あり。
避難訓練の開催案内・通知は作成、配布側は分かっていることでも、地区長、班長には初めてで分かりにくいこと、伝わりにくいこともあるので、毎回、丁寧な説明が必要だと感じました。(江畑)

地区	班数	会員数	総戸数	居住者数
1	4	30	36	66☆
2	4	27	39	61
3	3	38	43	91☆
4	4	38	44	67☆
5	3	38	38	97
6	5	41	45	93☆
7	3	31	34	78
8	5	45	50	131
9	4	38	40	83
10	3	36	39	86
11	5	59	61	☆
12	3	40	41	98
13	5	27	35	86
14	4	51	55	130
15	4	51	51	121
16	4	41	43	99
17	4	32	41	100
18	3	35	42	99
19	5	44	44	83☆
21	2	28	32	63
22	3	40	41	106
23	4	47	51	87☆
24	4	33	39	79
25	3	42	42	74☆
26	4	34	40	99
27	5	34	39	105
合計	100	1,000	1,105	2,282

☆:記入なしのある班・地区

新型コロナワクチンに関する情報入手先

新型コロナワクチン接種に関する情報
入手先の代表的なサイトを下記に示します。

・厚労省:「厚労省ワクチン」で検索
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html

・横浜市:「横浜市ワクチン」で検索
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/vaccine/vaccine-01.html>



消火器及び感震ブレーカー斡旋販売の結果

5. 消火器の斡旋販売

60軒の申込み。(購入37、詰替え16、廃棄29+α)
斡旋手数料6,100円は自治会収入として処理

5. 感震ブレーカーの斡旋販売(防災VG)

6件の申込み。訪問して取り付け可否の確認をし、2件に取り付け対応。

新型コロナウイルス接触確認アプリの利用について

1. 「COCOA(ココア)」の働き

- 新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA(ココア)」は、
- ✓ 最近(2週間以内)に出会った人の中で感染者が発生した場合、
 - ✓ 自動でアプリが教えてくれます。
 - ✓ また、自分が感染した場合、アプリを通じて伝えることができ、
 - ✓ 感染拡大を防ぐ効果があります。

2. どんな仕組み

- 「COCOA(ココア)」が入っているスマートフォンが、
- ✓ 自動的に周辺のスマートフォンと通信(Bluetoothをオンに設定)し互いを自動で記録します。

COCOAアプリが取り込まれていて、「1メートル以内に15分以上通信が行われた」場合。



- ✓ 氏名、電話番号、メールアドレス等の個人情報は一切やり取りされず、
- ✓ 記録される情報は、ランダムな文字列です。
- ✓ また、位置情報(どこにいるのか)も記録されません。
- ✓ 下記条件を満たした場合のみ互いを記録します。

3. ココアアプリ仕組み

自身のアプリに感染者が記録されている場合に限り、アプリが教えてくれますので、スマートフォンの表示に従い受診等の対応を自身で行います。

- ✓ 感染者と何時、何処で接触したのか、
 - ✓ また誰なのかは分からない仕組みになっています。
- 自分が感染した場合は、
- ✓ アプリ内の[陽性情報の登録]から自分で登録します。
 - ✓ 氏名や電話番号、メールアドレス等の個人情報は相手に通知されません。

